

横田のC-130J、「レッド・フラッグ・アラスカ」にデビュー Yokota's C-130J Super Hercules makes its debut in Red Flag-Alaska

June 18, 2018

By Airman 1st Class Juan Torres

【アラスカ州エルメンドルフ・リチャードソン統合基地発】旧型C-130Hハーキュリーズから新型への機体の入替えを完了し、第36空輸中隊は「レッド・フラッグ・アラスカ」軍事演習で戦術空輸を実践する態勢を整えた。

「我々が“レッド・フラッグ・アラスカ”軍事演習でC-130Jを使用するのは初めてなので、同中隊の隊員にとって、新しいことを学ぶ機会となっている」と第36空輸中隊C-130J任務計画担当主任クリストファー・アンセル大尉は述べた。

横田のC-130Jは、太平洋地域における重要な平和維持活動や緊急時の運用を支援する目的で、物資や人員の輸送、空中投下、航空医療搬送などに使用される。同新型輸送機は、性能が大幅に改善され、運用能力が向上し、機動性が増した。

「C-130Jはスペックの向上により、特にアラスカのような山岳地帯の環境で優れた輸送能力を発揮する。また、完全なデジタルフライトデッキ化によって、より詳細に状況認識ができる機器を備え、より複雑な空域での安全な飛行を実現する」とアンセル大尉は言う。

C-130Jは、従来のC-130モデルよりも少ない人員で運用でき、運用およびサポートコスト、またライフサイクルコストを削減した最先端技術を搭載している。また、上昇性能、最大速度、航続距離も向上し、高い短距離離着陸能力を持つ。

横田が太平洋における主要な戦力展開の拠点として広く知られる中、第374空輸航空団の空兵たちは、彼らの今の仕事が全て先代たちの仕事の上に成り立っていることを胸に刻んでいる。

「先代のC-130Hハーキュリーズの乗務員たちは、太平洋地域において大きな役割を担った。機体をC-130Hスーパーハーキュリーズに入れ替えた同中隊は、そのレガシーを受け継いで行く。30以上の部隊と共にこのような大きな演習を行うことは、自分たちの運用や他の部隊との連携を理解するよい機会だ。必要時に実践できるよう、米陸軍からさまざまな国との連携にいたるまで、あらゆることについて把握する必要がある」と第36空輸中隊C-130Jロードマスターのジェイミー・スアレス一等空兵は語った。

